

KANAZAWA
FORUS

奥能登珠洲
復興応援企画展
～奥能登国際芸術祭～

20250315～0413
10:00-20:00

奥能登国際芸術祭

2020 +
2023

金沢大学能登里山里海SDGsマイスタープログラム
2024年度/山本ゼミ・記憶のかけらプロジェクト

山本基「記憶への回廊」

アクセサリー作りワークショップ

能登半島地震により倒壊した作品のテクスチャーである
「塩の結晶」を用いた体験型ワークショップを開催いたします。

日時 2025年3月29日（土）3月30日（日）
11:00～15:00

場所 金沢フォーラスIF
（石川県金沢市堀川新町3-1 金沢駅から徒歩1分）
予約不要/先着順/参加費1,000円



Recording memories

「記憶を記録する」

かつて地域の子供たちが集う珠洲市小泊保育所の姿をそのままに、奥能登国際芸術祭の会場のひとつとして生まれ変わった山本基「記憶への回廊」。その後、度重なる群発地震に耐えたメイン作品でしたが、令和6年能登半島地震により倒壊。「大切な人との思い出を忘れない」という作者のパーソナルなコンセプトに加えて、震災の記憶という新たな社会的意味が積み重ねられました。



「記憶を持ち帰る」

アクセサリ作りで用いる塩の結晶は、展示作品「塩の庭」を構成した塩のブロックより、倒壊し破損した欠片を作者自ら採取したものです。作品の重要な構成要素であり、奥能登・珠洲の象徴である古式製法の塩作りを想起させる存在。また古来より神聖な存在の「塩」を身近に置くことで、持ち帰られた皆さんが、さまざまな記憶を手繰り寄せるきっかけとなりますようお願いしています。

Bring back memories*Weaving memories*

「記憶を紡ぐ」

手元で揺れる小さな作品をきっかけに、目を留めた誰かとその由来を語ることで、記憶を紡ぐことが始まります。また、倒壊したブロックに見立てた白い付箋に、震災を境に失われた多くの「言葉」を書くこと、そしてその言葉をメッセージボードに残すことで、知らない誰かと対話するきっかけが生まれます。ぜひ、会場で手を動かしながら、それぞれの言葉を見つけてみてください。

「記憶を巡る」

本プロジェクトは、金沢大学能登里山里海マイスタープログラム2024年度「山本ゼミ」生により、アート活動の施作として始まりました。これまで「旧小泊保育所」と「らぼるとすず」（共に珠洲市内）において、地元の皆様を始め、奥能登国際芸術祭に心を寄せる遠方の方々がアクセサリ作りをきっかけに集まり、対話を重ねる場を構築しました。こうした新しい繋がりや化学反応を一過性で終わらせず、地域活性の可能性をも見据えた取り組みとして、今後も積み重ねてゆきたいと考えています。

Reminiscing